



## 新聞紙はどうして黄色くなるの

### 化学パルプと機械パルプのちがい

紙には、いろいろな種類がありますが、日に焼けて黄色くなる紙と、あまり黄色くならない紙があります。

紙をつくるときには、原料の木を細かくくだいて、薬品を加え、木の成分である繊維と繊維でないものに分け、繊維だけを取り出してつくる、化学パルプからつくる方法と、木に薬品を加えないで、全部どろどろのパルプにした、機械パルプからつくる方法とがあります。そのほか、ミツマタやコウゾなどでつくる和紙があります。

### 新聞紙にふくまれるリグニンの性質による

化学パルプでつくった紙は、繊維だけで、ほかのものが混ざっていないので、長い月日がたっても、あまり色が変わりません。

ところが、機械パルプからつくった紙は、リグニンという物質が入っています。リグニンをふくんでいる紙は、空気にふれたり、日光にあたると色が変わります。

新聞紙は、機械パルプからつくった紙で、リグニンをふくんでいます。それで、新聞紙は、空気にふれたり、日光によって黄色くなるのです。

新聞紙を、厚い紙に包んでおいたり、暗い所に置いておくと、色の変わり方は、少なくなります。（監修・青木 国夫）

